

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ
Quarterly magazine FOYER
2024 Autumn

つながる、ひろがる、あつまる
ほわいえ

022

FOYER



特集
県劇盆踊り2024
北部九州ジュニアオーケストラ
フェスティバル in アクロス福岡

 熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2024 Autumn 発行日:2024.9.20 ※掲載内容は8.31現在のものです。



毎度おなじみ、県劇盆踊り
みんなで輪になって踊れば、和ができる

県劇盆踊り 2024

2024年8月14日(水)
メインステージ/演劇ホールホワイエ
サブステージ/コンサートホールホワイエ

【メインステージ出演】
新感覚邦楽エンターテインメント集団「あべや」
牛深ハイヤ保存会
中山芳保会
熊本県警察ゆっぴー、ひまわり隊

【協賛】
大腸肛門病センター高野病院
ゆめマート大江
レストラン七彩
リコージャパン株式会社 熊本支社

2016年に「県劇夏祭り」としてスタートし、熊本の夏の風物詩となった(なりたい!)「県劇盆踊り」。コロナ禍の影響で、日本各地で地域の人たちが集うお祭りが失われている中、地域住民の方々、熊本に帰省してきた人たち、そして近所の子どもたちが集まる場として、今後もずっと、ずっと続けていくことを目標に、今年も開催しました。

演劇ホールのホワイエに櫓(やぐら)を組み、昨年から2年連続の出演となった新感覚邦楽エンターテインメント集団「あべや」による生演奏で幕を開けました。空調の効いた屋内で開催するお祭りですが、ホワイエの大きな窓ガラスの外には青空と緑、そして会場に集まった人たちの熱気に包まれて、まるで広場に集まっているような感覚になれるのが、県劇盆踊りの最大の魅力だと自負しています。民謡の生演奏が繰り広げられる櫓の周りを、多くの参加者が踊りのお師匠さんのお手本を見ながら輪になって踊る光景は、毎年このながら胸にぐっとこみ上げるものがありました。

コンサートホールのホワイエにはサブステージを設け、熊本県内で活動するYOSA KOI チーム「肥後真狗舞(ひごまぐま)」、吹奏楽団「熊本ウインドシンフォニー」のパフォーマンスが披露されました。また、スタインウェイピアノの演奏を体験できるオープンピアノを実施し、多くの子どもたちがピアノの音を味わう姿が見られるほっこりとしたひとときも。当日は最高気温37度以上を記録し、時折遠くで雷の音が鳴り響く中、県立劇場の中には、さまざまな音が入り乱れ、重なり合い、その中でお祭りの賑わいを楽しむ人たちの和があらここに生まれていました。



総勢150人！
音楽でつながった夏

福岡と長崎、大分、そして熊本
のジュニア/ユースオーケストラ
が一堂に会し、交流する「北部
九州ジュニアオーケストラ」。熊本
からは、熊本ユースシンフォニー
オーケストラが参加しています。
その活動は昨年8月、県劇コ
ンサートホールでのミュージック
キャンプが始まりました。普段は
別々のオーケストラで演奏してい
る子どもたちが、3日間ともに
練習し、音楽を創り上げる。最
終日にコンサートホールでの発表
会を終えた子どもたちは「また
必ず一緒に演奏しよう！」と県
劇をあとにしました。
そして今年8月、子どもたち
はアクロス福岡に再び集結。3日
間の集中リハーサルを経て演奏
会に挑みます。「まずは周りの人
と握手しよう」リハーサルは指揮
の下野竜也先生の言葉から

この事業は、北部九州の劇場
4館が連携し実現しました。今
回の福岡での学びをそれぞれの
拠点に持ち帰り、これからも皆
さんの活動が楽しいものになる
ことを、またこの出会いがずっと
ずっと繋がっていくことを開催
館一同は願っています。



北部九州ジュニアオーケストラ
フェスティバル in アクロス福岡

2024年8月25日(日)
アクロス福岡シンフォニーホール

【出演】

指揮：下野竜也
管弦楽：
福岡ジュニアオーケストラ
アルカスSASEBOジュニアオーケストラ
iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ
熊本ユースシンフォニーオーケストラ

【主催】

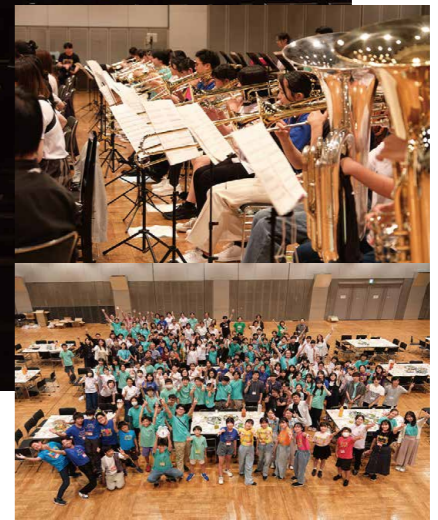
(公財)アクロス福岡
(公財)佐世保地域文化事業財団
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
(公財)熊本県立劇場



〈プログラム〉

ビゼー／「アルルの女」第2組曲より ファランドール
ポロディン／歌劇「イーゴリ公」より だったん人の踊り
グリーグ／2つの悲しい旋律 第2曲「過ぎし春」
ドヴォルザーク／交響曲 第9番「新世界より」第4楽章
エルガー／行進曲「威風堂々」第1番

本番を終え、下野先生は「オーケストラはスタープレイだ
けでは成り立たない。もっと周り
を聴こう、合わせようと言ってい
ました。最初に比べ、本番はそれ
が100倍はよくなった。コミュ
ニケーションこそオーケストラの
素敵なところ。自分のオケに戻っ
てもそれを大切に」と話してく
れました。最後にステージ上で互
いに握手して、フェスティバルは終
りました。



どきどきとわくわくに出会える！ 「けんげきキッズプログラム」

「けんげきキッズプログラム」は、子どもも大人も楽しめる演目を詰め込んだスペシャルプログラム。2024年度から新たにスタートしました。芸術に触れる鑑賞のはじめの一歩や、演奏したり踊ったり表現に関わる体験を提供しています。

劇場は、たくさんのどきどきやわくわくに出会える場所。劇場をもっと身近に感じていただけるように、そして様々な出会いがあるこの劇場で、新しい発見と心が動く体験を生涯にわたって楽しんでいただけるように、という思いを込め、長期的な目線でこのプログラムに取り組んでいます。

今年度はこれまで熊本県立劇場が取り組んできたなかで人気の高い3演目をご用意。すでに実施した2演目の様子を少しだけ紹介します。

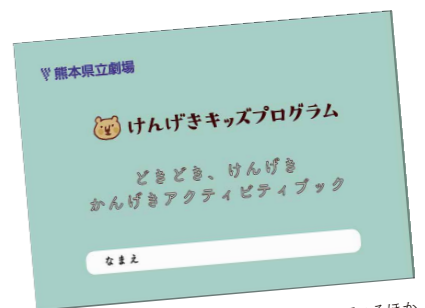
俳優・小林顕作さんが絵本の読み聞かせを行うこの演目は、約1200名のお客様をお迎えし、超満員で実施しました。小林さんの表情豊かな読み聞かせに大きな笑い声で客席が応えるなど、子どもも大人も大盛り上がるの会場でした。



**古家優里ダンスワークショップ
2024年6月29日(土)**

ダンサー・古家優里さんを講師に、2回のワークショップを実施しました。「あかちゃんダンス」は、赤ちゃんと一緒にゆる

くく楽しむワークショップ。小学生向けの「からだであそぼう！」では、想像した生き物になりきるダンスに参加者たちが元気よくチャレンジしていました。



「けんげきキッズプログラム」の会場に配布しているほか、館内「光庭文庫」からもご自由にお取りいただけます。このクマの描かれたロゴが自印です！

来年3月には、お芝居仕立てのバックステージツアー「行くぜ！劇場探検隊」を開催予定！年明けから募集を開始しますので、県立劇場ホームページをチェックしてみてくださいね！

そして、「けんげきキッズプログラム」に参加してくれた方へ配布しているのが、感想を書き込める熊本県立劇場オリジナルの冊子。その名も「どきどき、けんげきかんげきアクティビティブック」！県立劇場を出てからもその日のことを思い出して、誰かと話したり絵を描いてみたり、思い出を振り返る楽しい時間をご自宅で！このアクティビティブックは、県立劇場で実施されたものであれば「けんげきキッズプログラム」以外でも感想を書き込んでいただけます。3演目の感想を書き込めたら、ぜひ県立劇場の人にみせてください。特別なアイテムがもらえますよ。

一歩足を踏み入れると、小さな出会いが大きなどきどきにつながる不思議な場所が、ここ、劇場なのです！これからもさまざまな出会いを提供する「けんげきキッズプログラム」にご注目ください。

明後日朝顔プロジェクト全国会議 in 熊本 2024年8月3日(土) 熊本市現代美術館



7月24日に開催された明後日朝顔全国会議用の垂れ幕づくりのワークショップ。会場となった熊本市現代美術館には、熊本学習支援センターから21名が参加



2003年に日比野克彦さん(熊本市現代美術館館長)が新潟県十日町市助平の集落の住民とともにはじめた「明後日朝顔プロジェクト」。プロジェクトスタート時から20年以上もの月日を経て、朝顔の種は全国へと運ばれ、大きなネットワークの橋渡し役となっています。熊本県立劇場は、開館40周年を迎えた2022年からこのプロジェクトに参加しています。

毎年開催されるプロジェクトの全国会議が、今年は熊本市現代美術館で開催されました。当

日は全国各地のメンバー約60人が集まり、各地域での活動報告が行われました。県立劇場は、3年間の活動内容をスライドで発表しました。

2024年の県立劇場での活動には、「地域包括支援センターささえりあ」にご協力いただき、地域の方々や「熊本学習支援センター」からたくさんの方が種まきに参加。7月に開催された全国会議の装飾づくりのワークショップには、小学5年生から高校3年生までの21名が、カラフルな色紙を多用したオリジナル垂れ幕を制作しました。熊本らしさをテーマにした垂れ幕には、熊本城やスイカなどの熊本名物が描かれ、全国会議の会場を賑やかに演出してくれました。



西日本ハワイアン協会
第8回 熊本地区 Ka Makani Hula Festival
(カ・マカニ・フラ・フェスティバル)
2024年7月14日(日) 熊本県立劇場演劇ホール



西日本ハワイアン協会セレクト・ワヒネ(カ・レイ・マイレ・ヒヴァヒヴァ)による古典フラ「カヒコ」。
6月に開催された第21回指宿フラフェスティバル・コンペティション・ワヒネ部門で優勝



小学生チームによる愛らしいモダンフラ「カイマナ・ヒラ」

色とりどりの衣装に身を包み、髪や首には大輪の花飾り。梅雨明けが待ち遠しい7月上旬、美しい旋律のハワイアンミュージックと優雅なフラダンスが、演劇ホールを心地よい南国ムードで満たしました。公演を主催したのは2014年に結成し、2歳から90歳以上の約7000名が所属する西日本ハワイアン協会。今回は熊本支部の会員による発表会で、全88演目を通して練習の成果を披露しました。

古代ハワイ発祥のフラダンスは訓練と修行を積んだ男性にしか踊ることが許されない神聖なものでしたが、現代ではウク

レレの音色に合わせてゆったりと体を動かす自由なスタイルのアウアナ(モダンフラ)が広がっています。今回はアウアナを中心に、選抜メンバーによって古典ダンスのカヒコも上演され、観客はフラダンスの奥深さに魅了されている様子でした。



熊本支部長・林田のり子さん

県立劇場ギャラリー

THE KUMAMOTO
マナブ間部作

熊本県立劇場演劇ホールに下がる緞帳と、同じテーマで制作された絵画が劇場のどこに展示されているか、皆さんはご存知でしょうか。

熊本県宇土郡不知火町(現・宇城市)出身で、ブラジルを代表する抽象画家、マナブ間部(1924~1997)は「熊本の風土・火と水と大地とそこに生きる人々のエネルギー」をテーマに2点の絵画を制作しました。緞帳の原画は利用者の方が普段立ち入ることが難しい特別会議室に、そしてもうひとつは「階モジュール(通路)」に飾られています。マナブ間部は、10歳の時に一家で



マナブ間部(1924-1997)
1982年絵画

ブラジルに移住。18歳で画家を志し、1959年にはサンパウロ・ビエンナーレ展で国内大賞、パリ青年ビエンナーレ展で留學賞と最高賞を受賞。相次ぐ受賞に、米国のタイム誌が特集を組むなど世界的な画家として知られるようになります。ブラジルのピカソとも呼ばれました。

普段何気なく通り過ぎるだけのモジュールにも、さまざまな芸術作品が並んでいます。時には足を止め、コーヒーなど好きなお飲み物を片手に、舞台芸術とはまた違うアートに浸ってみるのはいかがでしょうか。

THEATER MANNER 観劇マナー

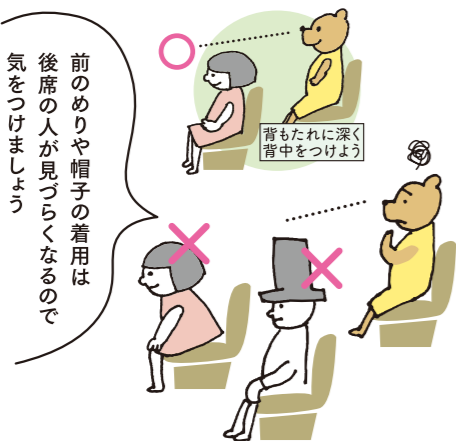
劇場は「音楽の世界にどっぷり浸かりたい」「演劇をこころゆくまで楽しみたい」「子どもの成長を見届けたい」など、さまざまな目的で、さまざまな人が集まる場所です。みなさんが気持ち良く観劇できる環境を整えることが劇場としての役割ですが、公演にいらっしゃるみなさんにも守っていただきたい、知っていただきたいマナーがあります。このコラムでは、観劇のマナーをご紹介します。



座席に着いたら、背もたれに深く座って
前のめりに気をつけて

劇場の座席はどこに座ってもステージが見やすいように、段差をつくるなどの配慮が施されています。座席に着いたら、背もたれに深く背中をつけるようにお座りください。そうすることで、ステージが見やすくなるように設計されています。時に公演中に夢中になって身を乗り出してしまいがちですが、ここで注意が必要です。前のめりになると、後ろの座席の人がステージを見づらくなってしまいます。同様に、後ろの人への配慮として、高さや幅のある帽子は座席に着い

たら脱ぐようにしましょう。ホール内にいる人たちは、みなさん公演を楽しみにされている人たちです。一人ひとりのちょっとした配慮で、素晴らしい時間が過ごせるはずです。



前のめりや帽子の着用は後席の人が見づらくなるので気をつけましょう

■熊本県立図書館「タイアップ企画」本の中にある劇場

熊本県立図書館 情報支援課 主任主事

青木 道子「あおきみち」

肌理(きめ)と写真

「ことば」があるから通じるものと、「ことば」がなくても通じるもの。
 そのどちらも大切に扱う空間という共通点が、劇場と図書館にはあるように感じています。
 「ことば」ありきだと思われがちな図書館にも、写真や絵など「ことば」がなくてもさまざまなことが伝わってくる資料がたくさんあります。
 今回紹介する、写真家石内都さんの初期からの写真を「肌理



著／石内都、出版社／求龍堂

(きめ)」というテーマで再構成した写真集もそんな1冊です。

「肌理」と聞くと、肌理の整った赤ちゃんの肌を想像してしまいがちですが、石内さんの捉える肌理はもっとざらついて粒立ったものです。ひび割れてポロポロになった壁。身体に刻まれたシワや傷。8月6日原爆雲の下に生きていた人々の遺品に似ていたシミ。一般的に美しいものとして扱われない被写体が多いのにも関わらず、石内さんが切り取った世界に写るのは圧倒的な「生」の美しさ。
 今を懸命に生き抜いているあなたに、ぜひ手に取っていただきたい1冊です。

県立図書館とのタイアップは2007年度から続いています。このコーナーでは、図書館職員おすすめの1冊をご紹介します。

■みなさまの声にお応えします！

客席から舞台上が

どのように見えるのか知りたい！

今号から新たにスタートする、県立劇場に寄せられたご意見・ご質問にアンサーするコーナー。今回いただいた声は「客席から舞台上がどのように見えるのか知りたい！」です。

現在、県立劇場の公式ホームページにて、客席視点の360度カメラパノラマビューを公開中です。コンサートホール・演劇ホールともに、様々な座席位置からの、おおよその視界が確認できるようにになりました。チケット購入の際や鑑賞前の参考に、ぜひこちらをご活用ください。

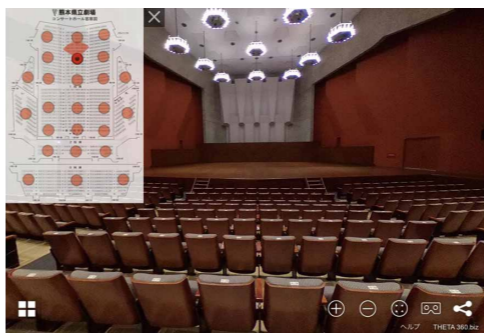
《アクセス方法》

- ① 下記URLより劇場HPにアクセス

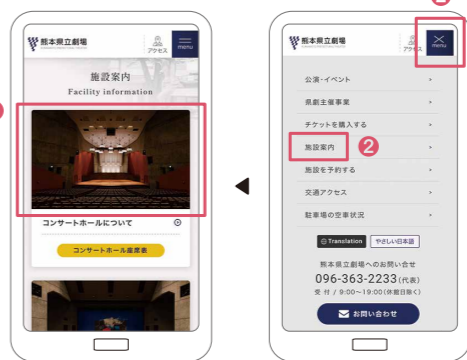


https://www.kengeki.or.jp/

- ② 右上[menu]より[施設案内]
- ③ 各ホールのページから画像をクリック
位置を選んで確認



コンサートホールパノラマビュー画面



■県劇職員が本音を綴るリレーコラム

舞台技術グループ

池島 茂伸「いけしものぶ」

音楽と共に過ごした青春(カセットテープ)

高校3年間でサッカーに捧げた私は、インターハイを最後に引退した。当時学生寮で生活していた私は、A君、Y君、T君とても仲が良かった。A君は中学時代からRAPをやっていて、RAPのいろはを私たちに教えてくれた。その頃の音楽を聴くアイテムといえばCDかカセットテープ、録音となるとカセットテープ一択だった。毎晩、進学に向けた勉強の息抜きにA君の部屋に遊びに行った。声かけしなくてもいつのまにか4人が集まる。1人が壁を叩いてリズムを取り始めれば、もう1人がビートボックスを始め、RAPの始まりだ。A君以外は素人だったので韻を踏むとい



うよりはリズムに合わせてそれっぽく歌う感じ。カセットテープに録音して、みんなで聴いて、「おまえ、カミカミたいい」など感想を言い合い楽しんだ。
 先日、実家に帰った際当時のカセットテープを大量に見つ、数年ぶりに聞いてみて思ったことは、「これはこれでちゃんと音楽だったよな」ということ。音楽を楽しむことが大事なのだ、大人になった私に伝えてくれた。そんなA君は高校卒業後もRAPを続け、2006年と2007年に開催されたULTIMATE MC BATTLEで熊本県王者となり全国大会に出場。惜しくも1回戦で敗退したが、全国ベスト16に入った自慢の友人である。
 ※ちなみに2012年と2014年のULTIMATE MC BATTLE全国王者は世界でも活躍しているCreapy NutsのR-指定だ。

■寄稿

熊本県立劇場以外の県内ホールで初開催

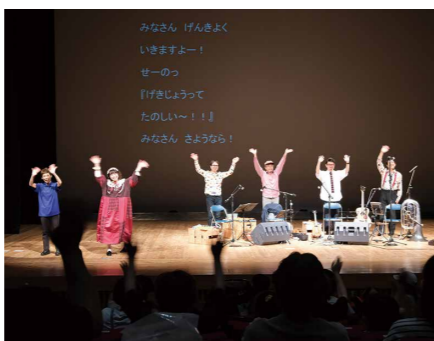
知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム

2024年7月21日(日) 天草市民センターホール

天草市民センター 所長

湯貫 登「ゆきのほろ」

「劇場って楽しい!!」を今回初めて天草市民センターで開催することが出来ました。以前、県劇でこのプログラムを見た時、純粋にコンサートを楽しんでいる皆さんを目の当たりにして、こんなコンサートが出来たら！天草でやるとしたら・・・と、脳内シミュレーションの日々。あれから数年が経ち県劇からオフアワーをいただき実際に開催できることになりました。
 まずはイベントで一緒にした手話通訳の方々、記念行事でホールをご利用いただいた天草支援学校の先生方へお話しすると皆さん前のめりになって聞いてくださり、行政や支援事業所などへの説明の場でも同様の反応をいただき、なんだか背中を押してもらえた気分でした。いざ募集を始めてみて、改めて



出演者に栗コーダーカルテット+タパティの皆さんをお迎えし、聞きなじみのある楽曲も披露されました

そのニーズの多さに驚きましたし、当日もたくさん笑顔に触れることが出来て、これは継続してやるべきだと痛感しました。コンサートや演劇、ダンスなどホールでの催し物は本来、いろんな人たちが一緒に色んな楽しみ方できるはず。初めて開催出来たこのホールはもちろん、他のホールたちもきっと「一緒に楽しめるみんなの居場所」になれたら良いな」と言っている気がします。